

注意点1



ボディに向かう軌道で
ピッキングの高速化を図れ

メイン・フレーズのような16分音符の高速リフでは、**右手をボディに向かうように直線的に**押して(ダウン)、引く(アップ)ように動かすとよい(図1)。このようにピックを弦の下に埋め込む感覚でダウン・ピッキングすると、次のダウンへ移る際に弦にピックが自然に当たる(アップ・ピッキングする)ので、オルタネイトの高速化が図れるのだ。

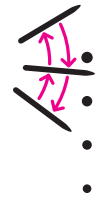
図1 高速オルタネイトのコツ

○ 直線的な軌道



右手はボディに向かうように動かす。

× 振り子状な軌道



ピックの振りが大きいので無駄が多い。

注意点2



フォームをキープしたまま
正確に弦移動するのじゃ!

メイン・フレーズ4小節目では、**弦移動中にパワー・コードのフォームが崩れないように気をつけよう**(写真①~③)。Fのパワー・コードは、ルート(6弦1フレット)を6弦開放と1フレットの中間地点で押弦してしまうと、ルートの音程が乱れることがあるので、必ずフレットの真横で弦を押さえるようにしてもらいたい。



① メイン・フレーズ4小節目2拍目。Cコードを押さえよう。



② 6弦開放を鳴らしている間に、左手を移動させるとよい。



③ 3拍目ウラでは、6弦1f & 5弦3fを押弦しよう。

~コラム4~

地獄の戯れ言

ギターは、立った状態でも座った状態でも、同じ姿勢で構えることが大切だ。したがって、猫背や寝そべった状態ではなく、背筋を伸ばし、身体の正面に対して、ギターをやや斜めに構えるようにしましょう(写真④~⑥)。また、ストラップを掛けていると、座っていても立った姿勢を意識できるようになるのだ。

キミは正しい姿勢で練習できているか?
座った時のギターの構え方を確認せよ



④ 猫背姿勢は、立った時と指板の見え方やピッキングの角度が異なる。



⑤ 寝そべって弾くと、指板が平行になるので、手首に負担が掛かる。



⑥ お勤めの姿勢。背筋をしっかり伸ばして構えよう

【フレットの真横で弦を押さえる】特にロー・ポジションでは、指がフレットから離れてしまうことがあるので要注意。指がフレットに軽く触れるように押弦するとよいだろう。